

幼児教育と小学校教育の円滑な接続に向けて

■「遊び」が育てる「学び」の未来

幼児期の自発的な遊びの中で育まれた、やり抜く力や協調性、自信などの「非認知的能力」は、変化する社会を生きていく上で重要な力です。幼児期の「遊びに没頭する中の育ちや学び」を小学校以降の「主体的・対話的で深い学び」へと円滑につなぐことが大切です。

幼児期 学びの芽生え

- 楽しいことや好きなことに集中することを通して、様々なことを学んでいく。
- 遊びを中心として、頭も心も体も動かして様々な対象と直接関わりながら、総合的に学んでいく。
- 日常生活の中で、様々な言葉や非言語によるコミュニケーションによって他者と関わり合う。



幼児教育

幼児期の終わりまでに育ってほしい姿

自立

成長

安心

児童期 自覚的な学び

- 学ぶことについての意識があり、集中する時間とそうでない時間（休憩の時間等）の区別が付き、自分の課題の解決に向けて、計画的に学んでいく。
- 各教科等の学習内容について授業を通して学んでいく。
- 主に授業の中で、話したり聞いたり、読んだり書いたり、一緒に活動したりすることで他者と関わり合う。

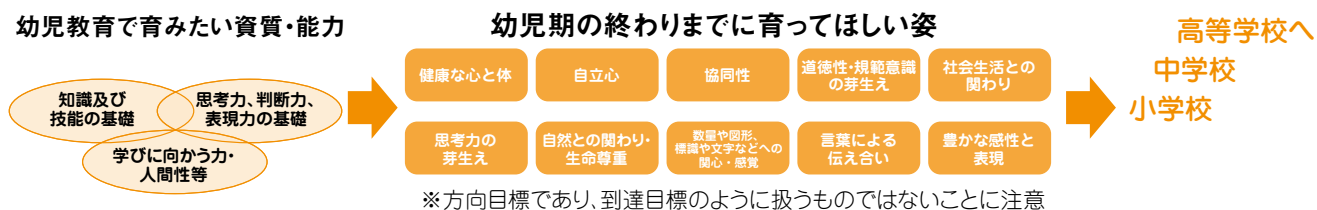


小学校教育

■幼児期と小学校以降の教育を「育みたい資質・能力」でつなぐ

～「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を手掛かりに～

「育みたい資質・能力」の三つの柱は、幼児教育から高等学校まで続けて育んでいくものとして保育所・幼稚園・幼保連携型認定こども園、小学校以降高等学校までの各要領・指針等に共通して示されています。そして、幼児教育で資質・能力が十分に育まれると修了前の子どもに現れる姿（方向目標）として、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」があり、小学校以降でも続けて育んでいく必要があります。



■「架け橋プログラム」の実施に向けて

未来を担う子どもに学びや生活の基盤を育み、持続可能な社会の創り手となることのできる力の基礎を育むため、幼児期から児童期の発達を見通しつつ、5歳児と1年生の2年間のカリキュラムを一体的に捉え、幼児教育・小学校教育関係者が連携してカリキュラムや教育方法の充実・改善にあたるなど、接続期の教育の質向上が求められています。

「架け橋プログラム」の目指す方向性

- 架け橋期（5歳児から1年生の2年間）のカリキュラムの編成・実施
保幼小の保育者と教員が協働し、共通の視点をもって検討し、編成・実施
- 保育者と教員が対話を通して相互理解・実践を深める体制作り



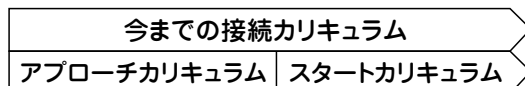
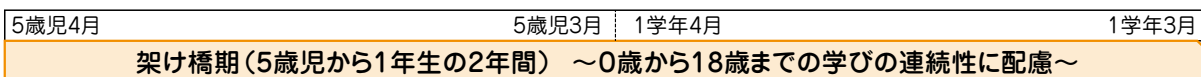
架け橋プログラム
(文部科学省HP)

■入学前後の数か月の取組を充実・発展させながら、架け橋期（5歳児から1年生の2年間）のカリキュラムの作成・実施へ

小学校においては、入学当初、スタートカリキュラムの編成・実施により、幼児期の育ちや経験を生かした指導の工夫を充実させていく必要があります。（合科的・関連的な指導の工夫、弾力的な時間割の設定等により幼児期に大切にしてきた生活リズムや一日の過ごし方に配慮 等）※小学校学習指導要領解説生活編第4章1 P62～参照

子どもたちが安心して主体的に自己発揮し、新しい生活を創り出そうとする姿を実現していくことが大切です。

アプローチカリキュラム・スタートカリキュラムの取組を生かしながら、入学前後の数か月だけにとどまらず、架け橋期の2年間の保育・教育の質の向上に向けて、保育者と教員で相互理解を深めながら、作成していきましょう。



「架け橋カリキュラム作成ガイドブック」の活用を！

茨城県架け橋カリキュラム検討会により作成しました。市町村や学区の取組を進める際の参考にしてください。

【内容】○「架け橋」で何をつなぐのか？

- 「架け橋カリキュラム」作成イメージ
- 「架け橋カリキュラム」作成のプロセス
- フェーズごとの扉（取組のポイント）
- グループワークの取組例

○幼児教育や小学校教育の好事例

☆架け橋カリキュラムの様式や記入例

グループワークのワークシートや参観メモの様式も掲載（カスタマイズ可能）

※架け橋期（５歳児～１年生の２年間）のカリキュラムを本資料では「架け橋カリキュラム」と呼びます。



架け橋カリキュラム作成ガイドブック



■「架け橋カリキュラム」作成のプロセス

「架け橋カリキュラム」作成において大切なことは、保育者と小学校教員で子どもの姿をもとに語り合える体制を作り、保育・教育の充実に向けて実践・検証しながら、協議を通して改善していくことです。それぞれの保育・教育の違いを互いに尊重し理解し合いながら、共に育てていく子どもの姿を真ん中に、共通に大切にしたいことを語り合い、作成を進めていきましょう。

今、自分の市町村（または近隣の小学校と幼児教育施設）は、どのフェーズの取組をしているかをチェックしながら、接続の充実に向かうように、できるところから取り組んでみましょう。

フェーズ1 基盤作り 	☐ 園長・校長間及び担任間の関係作り ☐ 子どもの交流の実施 ☐ 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の共有 ☐ 園や小学校での子どもの生活の流れや活動について共有（相互参観等） ☐ ＜開発会議＞ 構成員の選定と目指す方向性の共有 ☐ ＜開発会議＞ 地域の実態の把握 ☐ 架け橋プログラム（体制作り・架け橋カリキュラム作り）の取組への理解と合意形成
フェーズ2 検討・開発 	☐ 【共通の視点】をもとに保幼小で意見交換し、架け橋カリキュラムを検討 ☐ ＜開発会議＞ 架け橋カリキュラムの【共通の視点】の検討 【共通の視点】の例 「育てたい子どもの姿」「育みたい資質・能力」「遊びや学びのプロセスで大切にしたいこと」「指導上の配慮事項（環境の構成・先生の関わり）」「交流・連携計画」「家庭との連携」 ☐ ＜開発会議＞ 保育者・小学校教員が協働して開発するための支援（研修等） ☐ ５歳児～１年生の２年間を対象とするカリキュラムへ ☐ 事前・事後打合せ等、幼児と児童の双方に学びのある交流を工夫
フェーズ3 実施・検証 	☐ 各幼児教育施設や小学校での実施・検証 ☐ ＜開発会議＞ 実施状況の把握・検証と支援 ☐ 実践事例の収集・共有 ☐ 教育課程や指導計画の見直し ☐ 教材としての「環境」の活用について保育者と小学校教員で一緒に考える機会の設定 ☐ 子どもの自発的な交流が生まれるよう、保育者と小学校教員で協働して工夫
フェーズ4 改善・発展 サイクルの定着 	☐ 持続的に改善・発展できる仕組みづくり ☐ ＜開発会議＞ 方針の改善・発展と支援 ☐ フェーズ２～３のPDCAサイクルの定着 ☐ 改善・発展のため、接続する園・小学校で、子どもの学びや生活を具体的にイメージして話し合う場を設定 ☐ 子どもの実態に応じて、各園・小学校の創意工夫を生かした動的なカリキュラムに

家庭教育応援ナビ「すくすく育て いばらきっ子」

茨城県教育委員会では、「家庭教育応援ナビ」を開設し、子育てに役立つマンガや動画をはじめ、家庭教育コラムや子育て相談Q&A、子育てアドバイスブックなど、ご自身の研修や保護者への情報提供に役立つコンテンツを掲載しています。

また、幼児教育関係研修情報や動画・資料・教材のコンテンツを随時更新し、幼児教育に携わる方々への情報提供に努めております。

保護者向けの資料やお便りの記事としてもお使いいただけます。ぜひ、ご活用ください。

応援ナビトップページ



「家庭教育応援ナビ」で検索！

<https://www.edu.pref.ibaraki.jp/katei/>

◆ コンテンツ紹介 ◆

- ①子育てに役立つマンガ・動画・資料
- ②子育て相談Q&A
- ③家庭教育コラム
- ④おすすめの本紹介
- ⑤子育てに関する相談窓口
- ⑥イベント・講座情報
- ⑦家庭教育支援資料モバイル版
- ⑧家庭教育支援資料PDF版
- ⑨子育てアドバイスブック外国語版
- ⑩家庭教育支援活動サークル・団体情報
- ⑪幼児教育関係研修情報
- ⑫研修資料・教材
- ⑬企業連携による教育力向上推進の取組
- ⑭X（エックス）



研修関係コンテンツ

⑪幼児教育関係研修情報

○下記の課の主催する研修情報を一覧表から確認できます。

- ・生涯学習課
- ・義務教育課
- ・子ども未来課



○研修名をクリックすると、開催要項や申込方法にアクセスできます。

⑫研修資料・教材

○左記の研修で使う動画や資料、保育や授業、園内・校内研修、家庭教育学級等で活用できる教材や資料を掲載しています。

- ▶「動画・資料」
 - ・研修の講義動画や資料
- ▶「教材・資料」
 - ・架け橋カリキュラム作成ガイドブック
 - ・保幼小連携・接続実践事例集 等



茨城県家庭教育を支援するための条例
県民一体となって家庭教育を応援しましょう！



【問合せ先】

茨城県教育庁総務企画部生涯学習課
就学前教育・家庭教育推進室
TEL029-301-5132